

NTT東西の活用業務に関する要望

2026年9月28日

エグゼクティブサマリー

- NTT東西はこれまで、固定電話やブロードバンド等のユニバーサルサービスやIOWN APN(All-Photonics Connect)等の次世代通信サービスを提供する等、地域電気通信業務を使命とする通信事業者として、高品質で安定した通信インフラの提供に努めてまいりました。今後も、**NTT東西の本来業務である地域電気通信業務に着実に取り組み、地域の課題解決に貢献していく考え**です。
- その上で、昨今の地域におけるお客様のICT利活用に関するご要望は、**人口減少に伴う労働力不足や、AI/IoT等の普及を背景として高度化・複雑化**してきており、その解決策としては、地域電気通信事業のみならずその周辺領域も含めて、ネットワークやデバイス、アプリケーションを組み合わせた**複合的ソリューションを提供することが求められています**。
- その際、実際にご要望いただく複合的ソリューションは自動運転の導入、ロボットやドローン、IoTの活用等多岐にわたっており、その全てをNTT東西が自ら開発・提供することは困難であるため、他社が既に提供しているサービス、ソリューション(以下、既製品)の中にお客様要望に合致するものがある場合には、**既製品(モバイル役務が予め組み込まれているものも含む)**を調達・提供することで、スピーディーに**地域のお客様要望に応じていくと共にNTT東西が新たに取り扱うことで地域課題に対する取り組みの活性化(新規市場の開拓等含む)**に繋げていきたいと考えています。
- こうした考えの下、先般の本委員会にて「モバイルが構成要素に組み込まれたサービス、ソリューションの提供」について、NTT東西において活用業務として実施可能とする要望について説明したところですが、前回の委員会において公正競争への懸念が示されたことを踏まえ、NTT東西がモバイル役務を含む既製品を調達してサービス、ソリューションを提供する際の条件について、あらためて提案させていただきます。
- なお、**NTT東西としてモバイル事業に全面的に進出する考えがない**ことは、重ねて申し添えさせていただきます。

1. 現時点でお客様からご要望等をいただいているソリューション

- 活用業務での実施を要望している「モバイルが構成要素に組み込まれたサービス、ソリューション」として、NTT東西が現時点で具体的にご要望やご相談いただいている内容および取扱いモバイル回線数は下表の通りです。
- 今後、下記以外にも地域の多様な課題に対応するご要望をいただくことが想定されます。

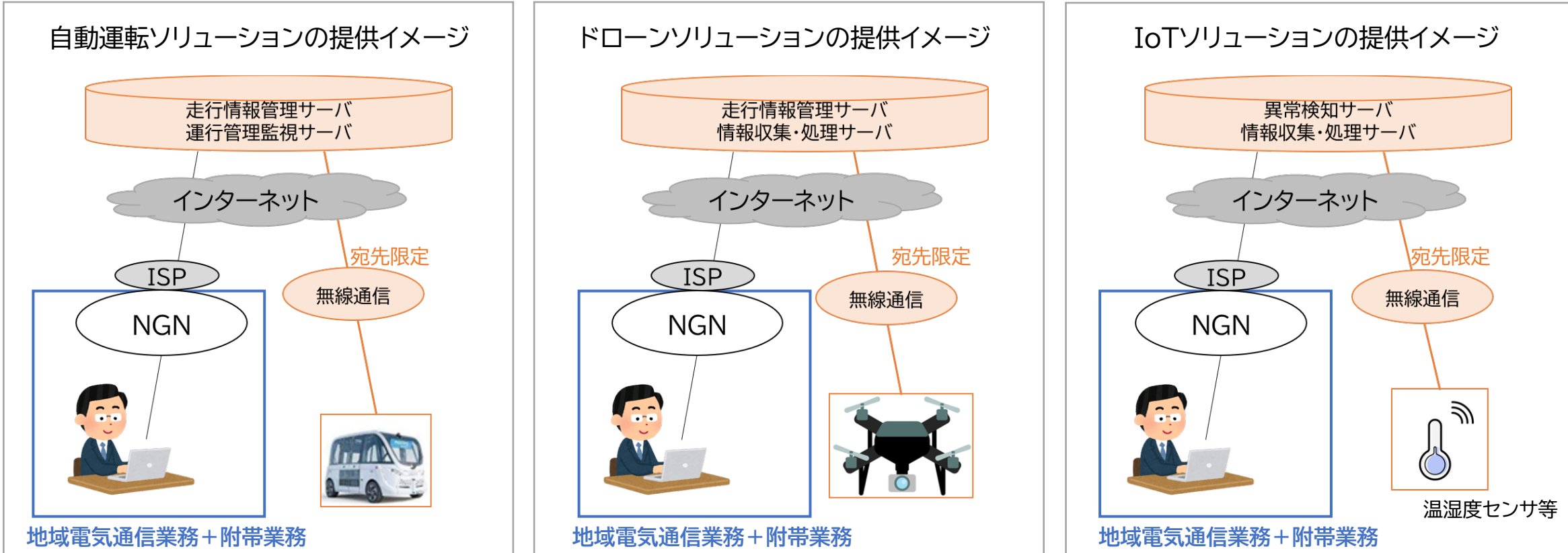
構成員限り

	概要	現在の具体的な要望等	回線数
自動運転ソリューション	・ドライバーを要さず、車両を自動で運転・走行管理するソリューション		
ドローン/ロボットソリューション	・地下や高所の設備等の点検や広大な面積の清掃等をドローンやロボットを用いて効率的に行うソリューション		
IoTソリューション	・自治体全域や河川・山全域など、広範なエリアにおいて、IoT機器を用いた異常検知等を実施するソリューション		

(参考①)各ソリューションにおけるモバイル役務の位置づけ

- NTT東西は本来業務である地域電気通信業務を中心にお客様へソリューション提供しますが、無線通信があらかじめ組み込まれたソリューションを市中から調達し提供する際には、以下のような提供イメージとなります。
- 各ソリューションの「無線通信」はモバイル役務、ローカル5G、公衆無線LAN等が選択肢となりますが、どの通信方法を採用するか、どの事業者を選定するかについては、お客様の要望仕様や地理的条件等から、メーカー側で決定します。(NTT東西は当該ソリューションで使用するモバイル役務の選定に関与しません。)

※オレンジ枠がメーカーから一体提供される範囲



2. 公正競争上の懸念への対応について

- NTT東西はモバイル事業に全面的に進出する考えはなく、今回活用業務として実施を要望しているものは、自治体・法人の要望に基づき、モバイルが構成要素に組み込まれた市中のサービス、ソリューションを調達して、自治体・法人にサービスやソリューションを提供するものですが、提供にあたって以下の条件を設定し、条件を全て満たす場合に提供することで、移動系通信市場における公正な競争の確保に支障が生じる恐れはないと考えます。

<提供にあたっての条件(案)>

1. NTT東西が調達する時点において、サービス・ソリューションのメーカーによって当該サービス、ソリューションで使用するモバイル役務が選定・組み込み済み※（モバイル役務の提供料金が独立して定められていないもの）であり、NTT東西が当該モバイル役務の選定に関与しないこと

※ 標準仕様としてあらかじめ複数のSIMに適応している場合：サービス、ソリューションのメーカーがお客様の地理的環境等に応じて、組み込むのに適切なモバイル役務を決定（NTT東西はモバイル役務の選定に関与しません）

2. モバイルを用いた通信が特定の宛先に限定されること

3. (必要に応じて)NTT東西が取り扱うモバイル回線数に一定の目安値を設けること

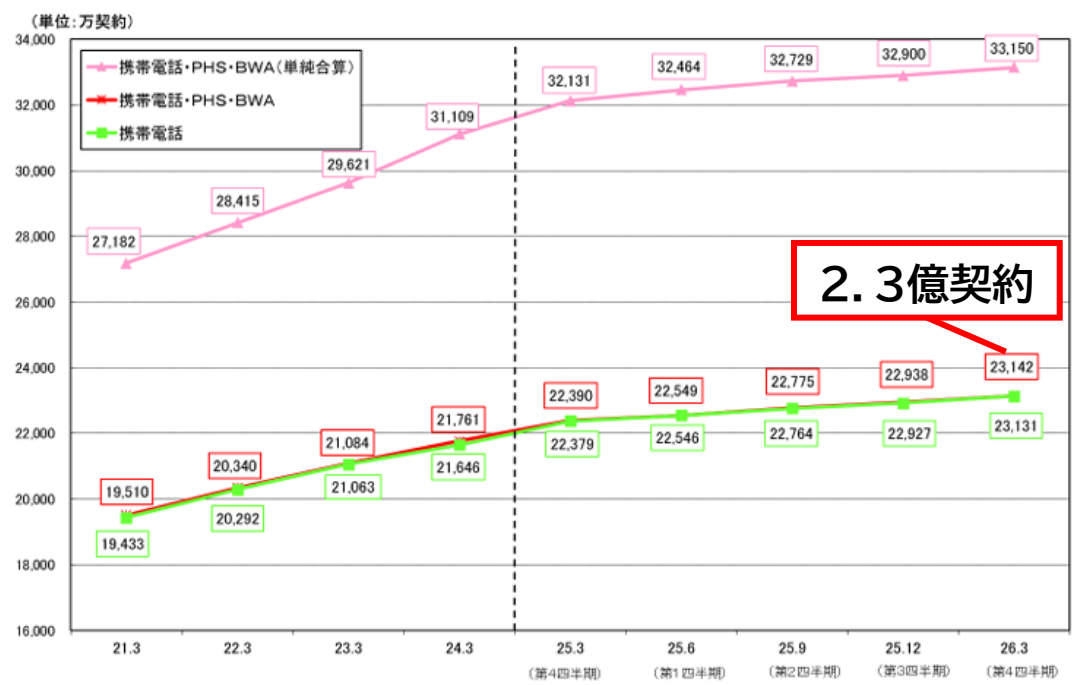
⇒ モバイルが構成要素に組み込まれたサービス、ソリューションの提供を認めていただいた場合には、提供したサービス、ソリューションの概要や提供方法、回線数の実績をお示しする考えです。

本業務が移動系通信市場における公正な競争の確保に支障を与える恐れはないと考えますが、必要に応じてモバイル通信の契約数(2.3億回線)やその内数である通信モジュールの契約数(0.6億回線)等を参考に、本業務の回線数に一定の目安値を設けることについて、議論いただくことも可能と考えます。

(参考②)移動系通信市場の契約数・事業者別シェア

<図表は電気通信事業分野における競争状況等の調査及び評価(令和7年度) 評価レポート案より引用 >

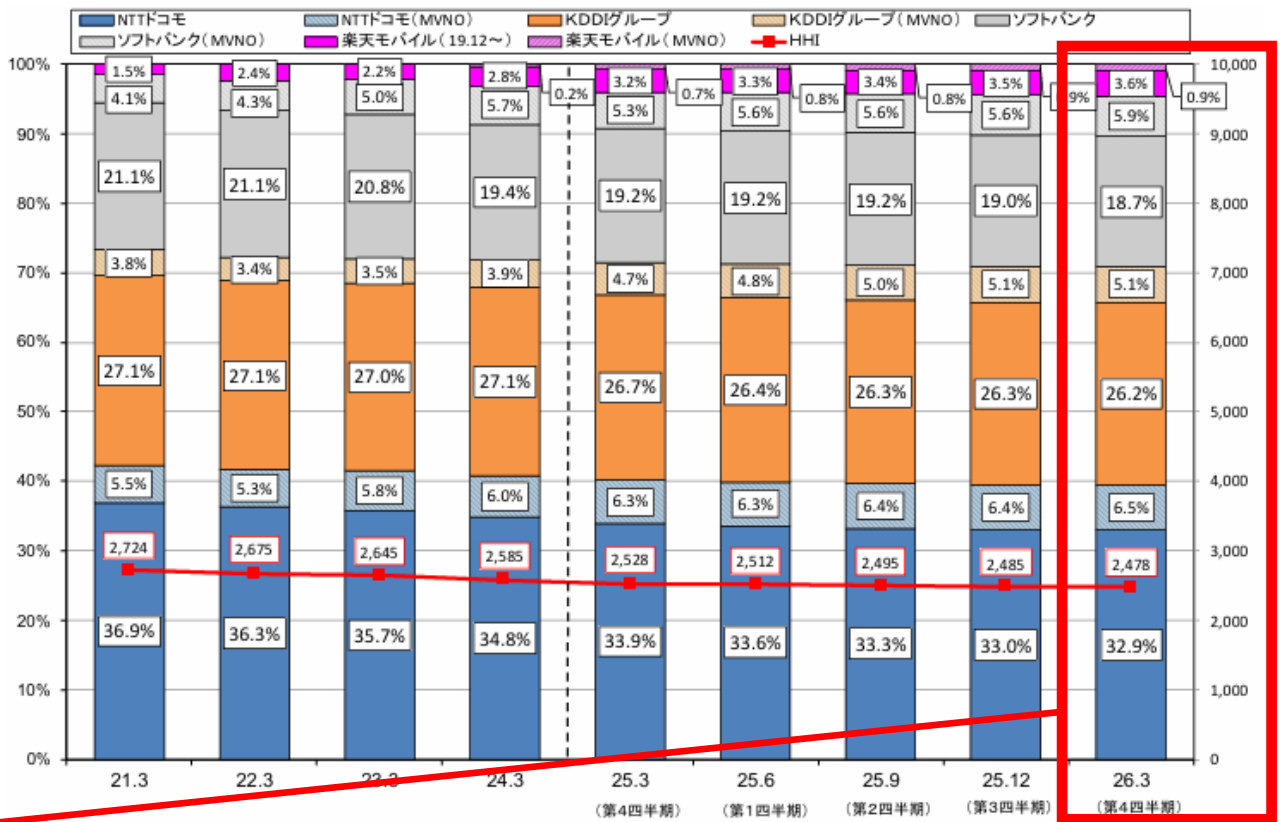
【図表Ⅱ-1】 移動系通信の契約数の推移



注: MNO からの報告を基に作成。

出所: 電気通信事業報告規則に基づく報告

【図表Ⅱ-3】 移動系通信市場の事業者別シェア及び市場集中度の推移



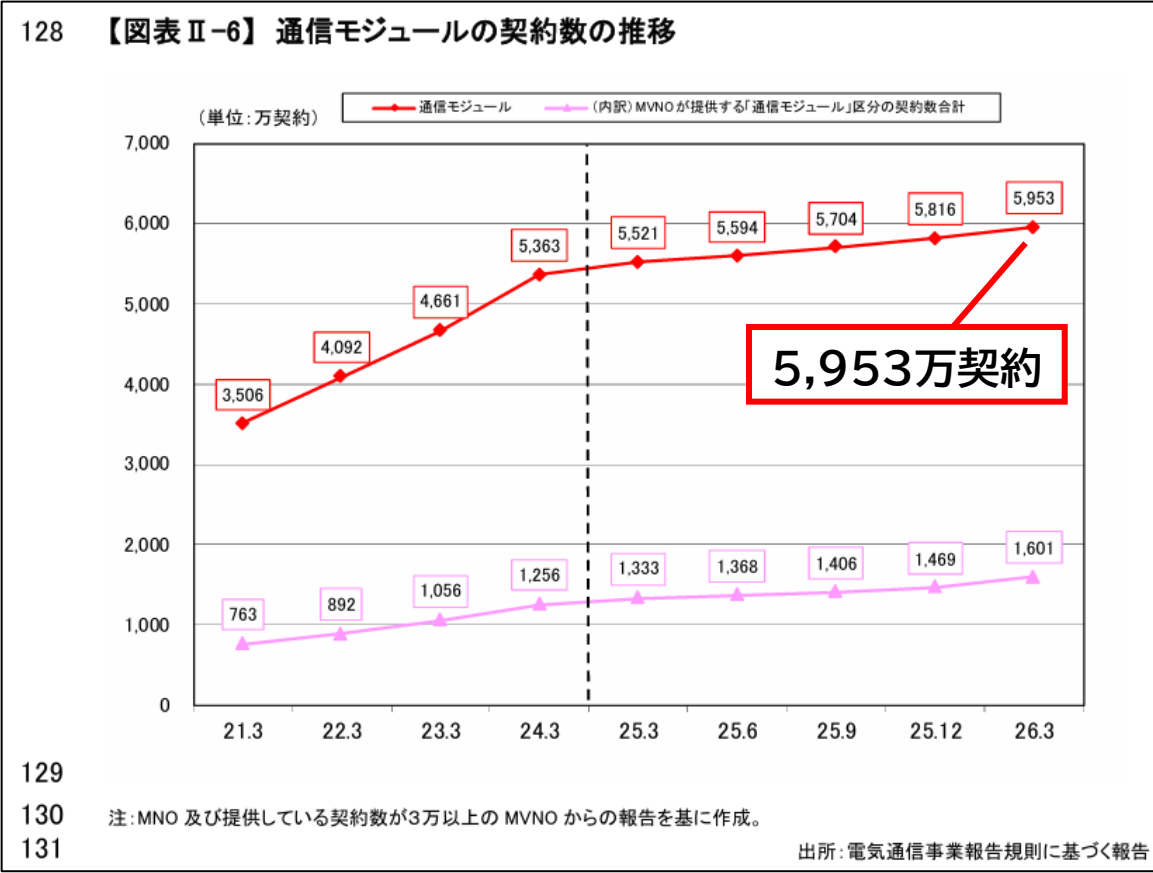
注1: MVNO のシェアを提供元の MNO グループごとに合算し、当該 MNO グループ名の後に「(MVNO)」と付記して示している。
注2: HHI は MVNO のシェアを全て合算して算出している。
注3: 楽天モバイルが提供する MVNO サービスは、「NTT ドコモ(MVNO)」及び「KDDI グループ(MVNO)」に含まれる。

出所: 電気通信事業報告規則に基づく報告

楽天モバイル・楽天モバイル(MVNO) : 4.5%
ソフトバンク・ソフトバンク(MVNO) : 24.6%
KDDIグループ・KDDIグループ(MVNO) : 31.3%
NTTドコモ・NTTドコモ(MVNO) : 39.4%

(参考③)通信モジュール市場の契約数・事業者別シェア

<図表は電気通信事業分野における競争状況等の調査及び評価(令和7年度) 評価レポート案より引用 >



ソフトバンク・ソフトバンク(MVNO)	:22.8%
KDDIグループ・KDDIグループ(MVNO)	:45.8%
NTTドコモ・NTTドコモ(MVNO)	:31.3%

